

Title	日本企業の戦略分析 - バリュー・ ベースト・ プラニング・ アプローチ -
Sub Title	
Author	大砂古佳基(Oosako, Yoshiki) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第586号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0586

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 大砂古 佳 基 主査 青 井 倫 一
(モービル石油株式会社) 副査 嶋 口 充 輝
所属ゼミナール 青 井 倫 一 研 矢 作 恒 雄

日本企業の戦略分析

— バリュースト・ベースト・プランニング・アプローチ —

本論文は日本企業の行動を分析する目的で、自由化が高まる資本市場と、製品市場における企業の競争戦略の関係に絞り研究を行なったものである。すなわち、日本企業の行動様式は欧米の企業と比較して特殊であるというような意見が見られるが、本当にそうなのであろうかという問題意識を持ち、最近の米国で研究されつつある Value Based Planning Approach を応用して、日本企業の戦略行動を分析したものである。

Fruhan の「経済価値／簿価 (Economic to Book Value Ratio)」を応用し、企業の経営者にとっては、市場価値自体を高めることよりも、将来のキャッシュフローの現在価値を示す発行済株式時価総額と、過去からの資本ストックを示す自己資本簿価を対比する「市場価値／簿価 (Market to Book Value Ratio)」を高めることが企業の投資効率を高めることになり重要な意味を持っていると考えた。そして、M/B の変化率は、企業戦略行動変数の変化率が規定するが、それは競争環境によって影響度が異なると考え、基本仮説を「市場価値を高めるために有効な戦略行動は業界によって異なる」と設定した。

この基本仮説を検証するための作業仮説を「 $t-1$ 期から t 期にかけての M/B の変化率を規定するメカニズムは、 $t-1$ 期から t 期の戦略行動の変化、および t 期から $t+1$ 期にかけての戦略行動の変化に内在している」と設定し、M/B を動的に分析するモデルを構築し、食品業界、化学業界、薬品業界、電気機器業界、自動車業界、精密機械業界の 6 業界で、重回帰分析による実証分析を行なった。

その結果、各業界で M/B の変化に対する戦略行動変数の影響度、影響の仕方が異なることが検証された。そして、M/B を高めるために有効な戦略行動も、食品、薬品、電機の財務戦略、化学の自己資本利益率戦略、自動車の売上高利益率＋財務戦略、精密の売上高利益率＋配当戦略と、異なることを検証することができた。